

1 調査日 平成26年11月4日（火）～6日（木）

2 調査の概要

11月4日（火）

（1）熊本県議会（熊本県熊本市）

肥薩おれんじ鉄道（株）は、平成16年3月、九州新幹線の新八代・鹿児島中央間の開業に伴い、その並行在来線（鹿児島本線八代・川内間）をJR九州から引き継ぎ運行を開始した第三セクター方式の鉄道会社である。株主は、沿線自治体（熊本県と県内4市町、および鹿児島県と県内3市）と日本貨物鉄道（JR貨物）となっている。

北陸新幹線（敦賀以西）の整備にあたっては、財政的負担が大きいことと、地元住民生活に不可欠な交通手段である北陸本線や湖西線の取

り扱いが課題となっており、肥薩おれんじ鉄道の経営分離の経緯、経営状況等について調査を行った。



（2）熊本市議会（熊本県熊本市）

熊本市ICT推進計画は、熊本市が実施してきた情報化を進化させ、九州・東アジアの交流拠点としての成長と日本一暮らしやすい政令指定都市づくりを情報化の側面から推進するとともに、適切で効率的なサービスを将来にわたって安定的・継続的に提供できる行政運営の実現と、市民協働によるまちづくりを総合的かつ計画的に推進するため策定された。

また、熊本市、熊本県、NTT西日本は、ICTの利活用による地域活性化等に関する包括連携協定を締結した。この「スマートひかりタウン熊本」プロジェクトは、地域の「課題解決」や、「住民サービスの向上」を地域住民と一体になって検討し、ICTを活用した新しい情報流通スタイルを実現することで、「未来も住み続けたいまち」として、熊本の魅力を高めることをコンセプトとしている。

今後の情報化施策の参考とするため、熊本市のICT推進計画およびICT利活用状況の調査を行った。



11月5日（水）

(3) くまもと県民交流館パレア、くまモンスクエア（熊本県熊本市）

くまもと県民交流館パレアは、NPO・ボランティア活動、男女共同参画社会づくりに関する活動、生涯学習活動など「県民の皆さんの自発的で主体的な様々な活動」を応援する拠点施設として平成14年4月1日開館した。

また、平成25年7月24日にオープンしたくまモンスクエアは、くまモンを活用した県の物産、観光等の情報を発信する交流拠点施設として、くまモンの営業部長室や県産品を中心とした販売コーナーが設けられている。熊本県では、この施設を拠点として、くまモンと熊本県の多彩な魅力を情報発信し、熊本県のブランド力の向上を目指している。本県の施設整備およびブランド推進施策の参考とするため、施設の概要について調査を行った。



(4) 熊本市現代美術館（熊本県熊本市）

熊本市現代美術館は、平成14年10月に開館し、現代美術を中心とした美術館として、国内外の水準の高い企画展を開催するとともに、美術の調査研究や地域に根ざした教育普及活動を実施している。

また、公益財団法人熊本市美術文化振興財団が平成21年度から5年間の指定管理を受け、事業を含めた運営を行っている。新生美術館整備および美術館の管理の参考とするため、美術館の概要および運営状況、ならびに指定管理者が運営することのメリット、デメリットなどについて調査を行った。



(5) 福岡市議会（福岡県福岡市）

福岡市では、庁舎、学校、市営住宅、その他市民利用施設の多くが、昭和40年代から50年代の高度経済成長期や政令市移行時期に集中的に整備されており、これら施設の老朽化が進んでいる。このため、「福岡市アセットマネジメント実行計画」を策定し、アセットマネジメント推進部が全庁的な総合調整を行い、道路、港湾などの専門施設と、庁舎、スポーツ施設などの一般建築物のアセットマネジメントを全市的に推進している。

施設の長寿命化対策の参考とするため、全庁的なアセットマネジメントの取り組みについて調査を行った。



11月6日（木）

(6) 福岡アジア美術館（福岡県福岡市）

福岡アジア美術館は、アジアの近現代の美術作品を系統的に収集し展示するとともに、アジアの美術作家や研究者を招へいし、滞在制作やアジア美術の研究などを行っている。また市民と美術にたずさわる人々が、たんに出会うだけではなく、互いに理解し、共に創造し発信していくことを目指す交流型の美術館であり、「第5回福岡アジア美術トリエンナーレ2014」が9月6日から11月30日まで開催されている。

新生美術館の整備および美術館の管理の参考とするため、3年に1回開催されるトリエンナーレの開催および美術館の運営状況について調査を行った。

